

1.技 術	2.4 その他（資源回収、河川、森林等を含む）その他
2.事 業 名	2.4.62 再生水製造の省エネ性・信頼性に関する国際標準化
3.キーワード	再生水製造、省エネ、再利用、標準化
4.目的	<p>本事業は、ISO/TC282「水の再利用」（TC：専門委員会）の分野で、日本が強みとする再生水処理システムや構成する処理技術の性能評価方法等を国際規格として開発することにより、システム・技術の差別化を容易とし、水インフラ輸出の優位な展開に貢献するものである。水インフラの新たな市場を形成するとともに、処理システムや構成製品の拡販に繋がり、それに伴う省エネ効果の拡大や地球温暖化対策に資するものと期待される。</p>
5.内容、成果	<p>平成26年度から開始された事業の中で、日本の提案による性能評価規格である「再生水処理技術ガイドライン」のシリーズ規格を開発してきた。その結果、Part 1(一般概念)、Part 2(システムの GHG 排出量評価)、システムを構成する4技術の性能評価規格(Part 3~Part 6、オゾン処理、紫外線消毒、膜ろ過、イオン交換)、及びPart 8(経済性評価)として、再生水システムの経済性をライフサイクルコスト(LCC)で評価する規格について、関係機関、大学、民間企業・団体等と協力して規格の開発を進め、IS(国際規格)として発行した。なお、Part 7は韓国提案による促進酸化処理(AOP)の技術に関する規格である。さらにPart 10(信頼性評価)として、システムが故障なく長期間安定して処理目標を満足する性能を評価する規格について、令和4年度に新規作業項目として提案した結果、各国による投票で採択され開発を開始した。</p> <p>令和5年度は、Part 10(信頼性評価)のCD(委員会ドラフト)の改訂作業を進めた。規格開発にあたっては、性能評価指標や評価方法の妥当性の裏付けとするため、水再利用を実施する自治体や民間企業から、再生水の水質リスク低減や省エネ効果、性能の安定性の事例に関する情報、データ等の提供の協力を得ている。なお、国土交通省が国内審議団体を行う ISO/TC282 の専門委員会とも連携した活動を行った。</p>
6.参照	本事業は、(株)三菱総合研究所からの委託事業として実施したものである。